

Clinical Academic Topics

矢追インパクト療法は古来ある蜂刺療法と同じ、 極微量皮内注射療法である

Yaoi Impact therapy(Y.I.T.) is the same as the ancient bee sting therapy.
It's a very small amount and plural intradermal injection therapy.

山脇診療所
Yamawaki Clinic

やまわき たかし
山脇 昂
Takashi Yamawaki

1. 矢追インパクト療法 (Y.I.T.) について

私は 29 年間 Y.I.T. を治療体験継続蓄積してまいりました。そこで一番印象として残ったことは、これは真の「若返り療法」であると言う事です。何方も信用しないし、世の中に若返り療法など存在しないと一般に思われていますから、誰も相手にしなく、人気もありません。アンチエイジング学会という所でも発表しましたが相手にされませんでした。人々は物事をどんどん細分化し、行き着いた細分化の先端に存在することを得意とし、その他は顧みようとはしません。それ故この療法はアンダーグラウンド的療法で無視されます。しかし地べたを這う力持ちです。

2. 由来と方法 効く理由

矢追インパクト療法は古来在る蜂刺療法と同じく極微量皮内注射療法です。オオスズメバチが 1 回に刺す量 (注入量) は 1.8 mg

(0.0018 cc) と言われています。その中身はヒスタミン・セロトニン・ノルアドレナリン等アミン類、ペプチド、酵素等を含みます。因みに蜂針療法に用いられるのは、セイヨウミツバチの、羽化してから 20 日以降の働きバチです。矢追インパクト療法は皮内に注入するものは希釈液 (水 50%とグリセリン 50%) と超少量 (分子 1~数個) のアレルゲン (杉花粉・ハウスダスト・ダニ・猫毛・カンジダ等) です。グリセリンは体に必要な物質で、血液中にある中性脂肪はグリセリン (グリセロール) に 3 つの短鎖脂肪酸が結合したものです。従って矢追インパクト療法は皮内注入内容物を体に蜂毒という激的毒物質から役に立つ物質に置き換えたものです。そのことが最も重要なことで、まさに天才的です。体表面に現れる現象は蜂毒と同じで、赤い丘疹 (クワデル) で、急速に樹状細胞が集まって来て、集まってくるという事は、毛細管血流が急速に発達増加することですから、赤い丘疹が出来、痒みや沁みるような深い痛みが来ます。でも樹状細胞が捉えた異物は僅か数個の抗原だけで、グリセリンは元々体の中に在るものですから

素道りし、グリセリンと3つの脂肪酸は筋肉中に入ると燃焼し1gあたり9kcalの熱量になりますから、代謝を良くし、体温を0.1～0.2℃上昇させ、血色を良くし、自律神経を安定化し、目が上がった又は目が覚めたと言ひ、眼力が付き、眼裂が大きくなります。気分が良くなったとも言ひます。蛋白質の合成を促進し爪・頭髮の伸び・皮膚の正常化等を促進し、見えない所（内臓等）でも促進します。因みに糖の1g当たりの燃焼カロリーは4kcalですから体温を維持するのに消費されるのに精一杯ではないでしょうか。矢追インパクト療法は打つと沁みるように痛いのは超急速に打った周囲の毛細血管血流を増やして行き、超急速膨張するからです。この現象はアレルギーに関係しなくとも、どんな科（皮膚科・整形外科・眼科・歯科等）にも役立ちます。歯科について言えば歯痛・歯肉炎・歯槽膿漏・顎関節症等に只ホッペ或いは顎関節表面に打つだけです。体の中で毛細管血流がどんどん減りゴースト化することが老化です。その真逆を行いますから若い方へ若い方へと若返りを行います。この療法を長くやっている人達の経過を観察していると納得行きます。例えばリウマチ様関節炎にはびっくりするほど良く効きます。当該部の血流が急速に増加するためです。関節の若返りです。これら一連を治療というのです。いかなる場合でも「若い方へ戻す」ことが治療です。このような現象が起こることは、まだ誰も知りません。高中性脂肪血症の方にこの注射療法はすごく適しています。中性脂肪の燃焼は糖の燃焼も誘いますから、糖尿病の人にも適します。運動をしていると同じことになりますから。皮膚は色白へと次第に変化してゆきます。

でも皆様はこの治療法を嫌います。何しろ注射で痛いし、何個も遣るし、冷や汗出ると言ひます。

この療法を気に入っている或る女性作家が私にくれた本の中から抜粋します。「イリ殿平和とは何でしょう。……ただの言葉ではありませんまいか。私の思うところでは、何事も相対しあっていると言う事です。醜悪なものがあるからこそ、輝ける美があり、悪臭があるからこそ、花の芳しい香りあり。善悪とて同じことではありますまいか……神秘の島の器伝説 立木アンジェリカ著」。この療法は何処かこれらに相似しています。沁みるように痛いからこそ効くのです。急速に毛細管血流を増やしている現象です。この方はホッペの笑窪に遣ってくれ遣ってくれとせがむ。何故と聞くと、これをやると沢庵ガリガリかじれるからと言う。

3. 症例

矢追先生がアレルギーの治療を主に目指していましたが、私はアレルギーとは関係ないような色々な疾患に、この療法を用いてきました。その一端を述べます。

症例1：この療法をやっている方で或るおばあさんの一例を紹介します。現在97歳 15年以上継続してこの療法をやっていました。来るときは介護の人に連れられ、よたよたおぼつかない足取りで来られますが、帰る時は少し足取りも改善し、安定した状態で帰ります。93歳の頃「私自然に死にたいからこの療法を止めます。」と言うんですよ。その1か月後には又来られるようになり、97歳になり薬だけもらいに来させ、やっと本人は来なくなりました。でもこの間インフルエンザの予防注射をやりに来ました。この療法の事は何も言ひませんでした。

症例 2：82 歳男性

高血圧症で本院に通院している。6 年前のある日 呂律障害を訴えた。Y.I.T. を喉に遣った。1 瞬良くなったがすぐに戻ったと言う。何だ 1 瞬じゃないかと蔑み、都内有名私立大学に行き 3 年間検査検査で治療はなく、銀座の言語療法士の所に 1 年通った。漢方も 1 年以上やった。でも改善しない。又当院での治療を求めて来た。あれから 6 年たち、呂律状態は更に悪化している。Y.I.T. を遣ったら少し調子よいと言う。未だ 2 回目なので何とも言えない。

症例 3：57 歳女性

右翼状肩甲。これは前鋸筋が麻痺するとなるらしいが、これに Y.I.T. をやった。3 回ぐらいで来院されなくなった。1 年ぐらいして又別なことで Y.I.T. をやってほしいと来院されたか、翼状肩甲は全く直っていた。

症例 4：65 歳くらいの埼玉県の女性

18 年前にヘバーデン結節の治療に 3～4 回やって良くなりその後来院なかった。

左前腕から指先までもものすごい腫脹で来院された。聞けば農業用ベルトコンベアに左腕を吸い込まれ、死に物狂いで引っ張り出し、近所の病院で手首粉碎骨折にプレートを張り、縫合したが、その腫れが並大抵ではない。その腫れに Y.I.T. を遣ったら、見る見る腫れが引き、3 回目ぐらいで腫れ・麻痺シビレ・疼痛もなく本人がびっくりしている。握力は未だ回復していない。

症例 5：60 歳位の整体師さん男性

5～6 年前に前下歯 2 本抜くために歯肉に麻酔したが、そのシビレが未だとれず有名私立大学病院に通院したが取れずのままだったがこの注射により難無く解消した。

症例 6：60 歳位の男性

4 日間ジャックリ（吃逆）止まらず、寝てられない。「どうにか止めてほしい」と言います。ベッドに寝かせて胸部正中線にやり、横隔膜と思しき所を横に遣った。途中からジャックリは収まった。

